

令和 5 年度

前期日程

地理歴史問題

〔注意〕

1. □日本史問題，▣世界史問題，▢地理問題の三つの中から一つを選んで解答すること。
2. 問題冊子及び解答用冊子は，試験開始の合図があるまで開いてはいけない。
3. 問題冊子は，表紙を除き 1 ページから 18 ページまでである。15 ページ以下は，下書き用紙である。脱落している場合は直ちに申し出ること。
4. 解答用冊子には，解答用紙 8 枚が折り込まれている。解答用紙をミシン目に従って切り離し，受験番号を，選んだ問題に対応する解答用紙の受験番号欄（1 枚につき 2 か所）に，正確に記入すること。
5. 解答は，解答用紙の指定されたところに記入すること。枠からはみ出してはいけない。
6. 問題冊子の下書き用紙のほか，問題冊子の余白も下書きに使用してよい。
7. 解答用紙は持ち帰ってはいけない。
8. 問題冊子は持ち帰ること。

令和5年度 地理歴史 (L)

補 足 説 明

・問題冊子

Ⅱ 世界史

9ページ 資料2の1行目、10ページ 問2の1行目および3行目に記されている「ネールー」は、教科書においては一般的に「ネルー」と記されている人物のことである。

I 日本史問題

- (I) 10世紀後半から11世紀半ばにかけて、摂関政治がおこなわれた。摂関政治の特徴について、太政官機構にも触れつつ、具体的に述べなさい(200字程度)。
- (II) 室町幕府の財政基盤は、知行国と荘園が主だった鎌倉幕府とは大きく異なる。室町幕府の収入源とその特徴について、具体的に述べなさい(200字程度)。
- (III) 1604(慶長9)年に幕府は、糸割符制度を設けた。幕府が糸割符制度を設けた理由について、その制度の内容にも触れつつ、具体的に述べなさい(200字程度)。
- (IV) 日本における新聞は、幕末に誕生し、明治に入ると政治や社会に影響を与えるようになる。明治期における新聞の展開について、政治との関わりにも触れつつ、具体的に述べなさい(200字程度)。

Ⅱ 世界史問題

- (I) 中世初期のヨーロッパに関する次の資料1・2を読み、下の問い(問1～問5)に答えなさい。

著作権処理中のため、公開できません。

資料2

著作権処理中のため、公開できません。

問1 空欄 ・ に当てはまる人物名を答えなさい。

問2 下線部①と下線部②にあたる人物の組み合わせとして正しいものを、次のア～エより一つ選んで解答欄に記号を記しなさい。

- | | | |
|---|----------|------------|
| ア | ① テオドシウス | ② グレゴリウス7世 |
| イ | ① トラヤヌス | ② ヨハネス12世 |
| ウ | ① レオン3世 | ② グレゴリウス1世 |
| エ | ① ゼノン | ② レオ3世 |

- 問 3 資料 1 に描かれているゴート人は 4 世紀にはドニエプル川流域(黒海北岸)に居住していたが、資料 1 の時期には主にパンノニア(ほぼ現在のハンガリー)に移住していた。このように彼らが移動した経緯を説明しなさい(50 字程度)。
- 問 4 資料 1 の時期には、地中海西方地域では諸勢力がせめぎあいを繰り広げていた。こうした地域の一つであるイベリア半島で紀元前 3 世紀から資料 1 の時期にかけて生じた支配勢力の変遷を説明しなさい(100 字程度)。
- 問 5 資料 2 の出来事は、資料 1 の時期以降の西ヨーロッパでローマ＝カトリックを中心とする新たな文化圏が成立する画期となった。下線部②が空欄

B

 に戴冠した理由を、資料 1 から資料 2 までの間に西ヨーロッパで生じた政治と宗教の動きから説明しなさい(150 字程度)。

- (II) 世界史Bの授業で、ヨーロッパと日本で描かれてきた世界図を素材に両者
の間での情報交換の歴史を調べることになった。教員から示された資料は、次
に示す図1～6である。それぞれの図とその解説を参照しながら、下の問い
(問1～問4)に答えなさい。

**著作権処理中のため、
公開できません。**

**著作権処理中のため、
公開できません。**

図1 ヘレフォード図 13
世紀後半から14世紀頃に
ヨーロッパで作製され、イン
グランドのヘレフォード大聖
堂に所蔵されている世界図。
ヨーロッパから見てキリスト
教の聖地エルサレムの位置す
る東を上方として、上部にア
ジア、左下部にヨーロッパ、
右下部にアフリカが描かれて
いる。

図2 五天竺図 14世紀頃
に描かれ、法隆寺に所蔵され
ている世界図。天竺(インド)
でうまれた仏教が震旦(中国)
を経て本朝(日本)にもたらさ
れたとする世界観に基づき、
三者によって形作られた世界
の姿が描かれている。

**著作権処理中のため、
公開できません。**

**著作権処理中のため、
公開できません。**

**著作権処理中のため、
公開できません。**

図3 世界の舞台 17世紀
初めまでにアントウェルペン
の地理学者オルテリウスが作
製した地図帳に含まれた世界
図。右端部には日本も描かれ
るようになり、下部にはオー
ストラリアなどはなく「メガ
ラニカ」と呼ばれる巨大な陸
地が描かれている。

図4 地球万国山海輿地全図
説 水戸藩で活躍した儒学者
の長久保赤水がマテオ・リッ
チの『坤輿万国全図』を参考と
しながら18世紀後半に作製
した世界図。地図の下部には
図3のように「墨瓦臘泥加」と
いう架空の陸地メガラニカが描かれてい
る。

図5 モルティエ世界図 17
世紀末から18世紀にかけて
アムステルダムの出版業者モ
ルティエから繰り返し出版さ
れた地図帳にある地理学者
ジャイヨによる世界図。オー
ストラリアやニューギニアな
どがつながった姿で描かれて
いる。

著作権処理中のため、 公開できません。

図6 新訂万国全図 江戸幕府の天文方として活躍した高橋景保が1810年に作製した世界図。日本を中心に配置しながら、樺太など日本の北の姿が描かれるとともに、メガラニカは消えてオーストラリア、ニュージーランドなどの姿も描かれている。

問1 図1や図2はそれぞれの地域における世界観が反映されたものと考えられている。世界史上、こうした図が作製された地域について述べたア～エのうち、下線部について正しいものを一つ選んで解答欄に記号を記しなさい。

ア 世界の「果て」が円盤のような姿で描かれた地図が作製されたメソポタミアでは、アッカド人たちが複数の都市国家を統一し、彼らの言語で古巴ビロニアのハンムラビ法典も記された。

イ 数学や幾何学で得られた知識を応用した地図が作製された東地中海では、アレクサンドロス大王の後継者たちとアケメネス朝の抗争により、文化の中心地として栄えていたカイロが衰退した。

ウ 仏教の世界観を表したマンダラが作製されたチベットでは、ダライ＝ラマの庇護の下でナーランダー僧院が栄え、中国や東南アジアから仏典をもとめて多くの僧が来訪した。

エ モンゴル帝国の支配したユーラシアの姿を描く地図が作製された朝鮮では、元朝の衰退後に新羅が倭寇対策を目的に明朝の冊封を受け、中国の影響を受けた両班たちが朱子学を支持した。

問 2 ヨーロッパで図 1 から図 3 へ世界図の変化が見られた背景について生徒が調べた。調べた内容とそれに基づいた判断として適切と考えられるものを、下のア～エから一つ選んで解答欄に記号を記しなさい。

ア ヴァイキングの歴史を調べた結果、図 1 のようにアメリカ大陸が描かれなかった背景の一つには、ノルマン人の一部が北アメリカに達していたものの、キリスト教を信仰せずに教会と対立していたことがあると判断した。

イ 地中海の歴史を調べた結果、図 3 のように地中海が詳しく描かれるようになった背景の一つには、シチリアに招かれたイスラーム教徒の学者たちにより、アラブ人たちの生み出した知識が伝達されたことがあると判断した。

ウ 航海術の歴史を調べた結果、図 3 のように北が上方に描かれるようになった背景の一つには、モンゴルの遊牧民が中国から伝えた羅針盤が、ヨーロッパでは海図とともに航海に利用されたことがあると判断した。

エ ルネサンスの歴史を調べた結果、図 3 のように緯線・経線が使われるようになった背景の一つには、アフリカ大陸やアメリカ大陸へと航路が広がるなか、古代ギリシアの知識が参考にされたことがあると判断した。

問 3 日本で図 4 から図 6 へ世界図の変化が見られた背景について生徒が調べた。その内容と結果について適切でないと考えられるものを、下のア～エから一つ選んで解答欄に記号を記しなさい。

ア 図 4 が『坤輿万国全図』を参考に作製された背景についてイエズス会を調べた結果、典礼問題をきっかけに中国でのキリスト教布教が禁止されたため、イエズス会士たちは日本へ逃れたことがわかった。

イ 図 6 がアムステルダムで作製された図 5 を参考にしていた可能性についてオランダを調べた結果、オランダは長崎の出島に拠点を置いたオランダ東インド会社を通じて日本と交易を行っていたことがわかった。

ウ 図 6 で日本の北方の様子が描かれるようになった背景についてロシアを調べた結果、ロシアは毛皮などの貿易を拡大させるためにアラスカまで進出し、日本の北方にも関心をもつようになったことがわかった。

エ 図 6 で南太平洋の様子が描かれるようになった背景についてイギリスを調べた結果、イギリスは、オーストラリアなどの探検事業を進め、その結果として科学的な知識を広めたことがわかった。

問 4 図 1 ～図 6 の世界図から読み取れるヨーロッパと日本との間の情報交換の歴史について、図 1 ～図 6 の解説や問 1 ～問 3 の内容を踏まえながら説明しなさい(200 字程度)。

- (Ⅲ) 第一次世界大戦後の国際秩序に関する次の資料 1・2 を読み、下の問い(問 1・問 2)に答えなさい。

資料 1

戦争放棄に関する条約(ケロッグ＝ブリアン条約, 1928 年 8 月 27 日)

第 1 条 締約国は、国際紛争解決のために戦争に訴えることを非難し、かつ、その相互の関係において国家政策の手段として戦争を放棄することを、その各々の人民の名において厳粛に宣言する。

第 2 条 締約国は、相互間に発生する紛争または衝突の処理または解決を、その性質または原因の如何を問わず、平和的手段以外で求めないことを約束する。

資料 2

著作権処理中のため、公開できません。

問 1 資料 1 の「戦争放棄に関する条約」(パリ不戦条約)は、提唱者のアメリカ国務長官ケロッグとフランス外相ブリアンの名をとって、ケロッグ＝ブリアン条約ともいわれる。この条約は締結された当時から論争を呼び起こした。

この条約が締結されるに至ったヨーロッパにおける歴史的背景と、なぜこの条約が効力を持たずに軽視されたのかについて、1920年代の国際協調体制の要であった国際連盟(League of Nations)と関連づけて説明しなさい(200字程度)。

問 2 資料 2 は、後にインド共和国初代首相となるジャワハルラール・ネルーが、1930-33年にかけて監獄の中から娘インディラーに宛てた手紙の一節である。その中でネルーは、世界の歴史と当時の世界情勢について書いている。そこで述べられている下線部①と下線部②に類似する他の事例を、第一次世界大戦から第二次世界大戦の間の時期から取りあげ、その経緯を「世界の平和機構」が役に立たなかったことと関連づけて説明しなさい(200字程度)。

Ⅲ 地理問題

(I) アフリカに関する次の問い(問1～問3)に答えなさい。

問1 次の図1は、アフリカ大陸およびマダガスカルにおけるウシの頭数分布を国・地域ごとに円の面積の大きさで示したものである。

著作権処理中のため、公開できません。

- (a) アフリカにはウシ以外の放牧家畜にも、その分布パターンが図1に類似するものがみられる。該当する放牧家畜名を二つ挙げなさい。
- (b) 図1の分布の特徴を、自然環境との関係に言及しながら述べなさい(100字程度)。

(c) アフリカ以外にウシの牧畜が行われる地域として、チベット・ヒマラヤ地域が挙げられる。チベット・ヒマラヤにおける牧畜の特徴がアフリカの牧畜と異なる点を、自然環境の違いを考慮して一文で説明しなさい(50字程度)。

問 2 下の図 2 は、アンゴラとエチオピアにおける実質 GDP 成長率(年平均)の推移を示している(参考のために日本の推移も示している)。図 2 から読み取れるアンゴラとエチオピアの経済の推移とその背景について、次の語を全て用いて述べなさい(150字程度)。

著作権処理中のため、公開できません。

問 3 サハラ以南アフリカで 1990 年代以降に発生した複数の紛争において、紛争地域で採取される鉱物が紛争を続けるための資金源となる例が報告されている。

(a) サハラ以南アフリカでみられた紛争鉱物の例(鉱物名)を二つ挙げなさい。

(b) 紛争鉱物を規制することが困難な理由を説明しなさい(100字程度)。

(Ⅱ) 次のページの地形図(図3)について、以下の問い(問1～問3)に答えなさい。

問1 図3中の下部の広い水面は宍道湖と大橋川という河川の一部である。この川は西に位置する宍道湖と東に位置する中海とを結ぶ役割を果たしており、その流路には日本海から中海を経由して塩分を含んだ水が遡上してくる。その結果、宍道湖は汽水湖となっている。汽水湖の事例には、ほかにサロマ湖・浜名湖などがある。汽水湖の特色について述べなさい(150字程度)。

問2 図3の都市は、近世の城下町を前身とする。この都市の建造環境を事例としながら、日本の近世の城下町における防衛機能について述べなさい。その際、以下に掲げた全ての語を用いること(150字程度)。

城 堀 水路 道路形状 寺院 町割り

問3 図3の都市では、近代以降、城跡の近くに県庁が立地し、その近辺に行政機能のほか、伝統的な商人町と並行して中心商店街の立地が見られた。しかし、近年は中心商店街の衰退が顕著となっている。地方都市における、こうした中心商店街の衰退要因について述べなさい。なお、図3から読み取れる事項も盛り込むこと(250字程度)。

著作権処理中のため、公開できません。